

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 景気ウォッチャー調査(2009年5月)
～DIは5ヶ月連続で大幅に改善～

発表日 2009年6月8日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

原数値	景気の現状判断(方向性)				景気の先行き判断(方向性)				景気の現状判断(水準)			
	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連
08年 6	29.5	29.3	31.4	26.4	32.1	31.8	32.8	31.8	27.7	26.9	30.0	28.0
7	29.3	30.6	27.7	24.1	30.8	30.7	32.1	28.0	28.5	29.3	27.9	24.9
8	28.3	28.8	28.1	26.0	32.0	32.5	31.8	29.3	25.5	25.7	25.6	24.5
9	28.0	28.4	27.8	25.9	32.1	32.8	30.7	31.1	24.6	24.7	25.0	23.4
10	22.6	23.2	22.4	19.6	25.2	26.8	23.1	19.6	21.8	22.0	22.0	20.0
11	21.0	22.5	19.2	15.7	24.7	25.9	22.9	20.7	18.9	19.9	18.0	14.3
12	15.9	18.2	12.4	8.5	17.6	19.3	14.5	13.3	15.3	17.2	13.1	7.9
09年 1	17.1	19.0	14.6	10.1	22.1	24.2	19.3	14.9	14.6	16.1	12.8	8.3
2	19.4	21.5	16.7	11.9	26.5	28.2	24.5	19.6	14.7	16.8	11.5	8.5
3	28.4	30.0	27.2	20.1	35.8	36.8	36.0	29.3	19.0	21.4	15.9	10.6
4	34.2	35.7	33.7	25.6	39.7	40.7	38.9	34.4	21.6	24.0	19.6	10.1
5	36.7	37.2	37.1	32.3	43.3	43.6	43.6	41.3	23.1	25.9	19.9	12.6

季節調整値	景気の現状判断(方向性)							
	DI				前月差			
		家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連		家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連
08年 6	29.7	29.6	31.1	26.9	-1.9	-1.7	-1.4	-4.2
7	29.3	30.7	26.7	23.9	-0.3	1.1	-4.4	-3.1
8	27.9	28.4	28.1	25.2	-1.4	-2.3	1.4	1.3
9	27.9	28.6	27.4	24.6	0.0	0.3	-0.8	-0.5
10	23.1	23.8	22.7	19.5	-4.8	-4.8	-4.7	-5.1
11	21.7	23.1	19.8	16.2	-1.4	-0.7	-2.9	-3.3
12	16.6	18.8	13.1	9.3	-5.1	-4.3	-6.7	-6.9
09年 1	18.4	20.5	16.2	10.8	1.8	1.7	3.1	1.5
2	19.7	21.8	16.8	12.1	1.3	1.3	0.6	1.3
3	26.2	27.5	25.6	19.3	6.6	5.7	8.8	7.1
4	32.1	33.5	31.4	24.4	5.8	6.0	5.8	5.1
5	36.1	36.4	36.9	31.4	4.0	2.9	5.5	7.0

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」より第一生命経済研究所試算

○ DIの改善ペースは速い

5月の景気ウォッチャー調査は、現状判断DI（方向性）が36.7と前月から+2.5ポイント改善、先行き判断DIも43.3と前月から+3.6ポイント改善した。ともに5ヶ月連続の改善である。季節性を排除するために当社で季節調整をかけた場合でも同様に改善している。なお、新型インフルエンザについては、近畿地方の現状判断DIが落ち込んだほか、他地域でも客足の低下がみられたとのコメントもあり、一定の悪影響があった模様である。

このところのDI改善ペースはかなり速く、既にリーマンショック以前である08年3月以来の水準まで戻っている。景気ウォッチャー調査における企業部門の結果は鉱工業生産に3ヶ月程度先行する傾向があることを考えると、この先の生産持ち直しペースは予想以上に速いものになる可能性があるだろう。

○ 経済対策効果が上昇に寄与

先月に引き続き、経済対策の効果を指摘する声が目立った。「定額給付金の給付が始まり、消費マインド

に回復の兆しが出てきている」、「政府の景気対策であるグリーン家電普及促進事業のエコポイント付与の効果がかなりあり、テレビ、冷蔵庫の販売が大きく伸びた」、「新型ハイブリッド車がけん引役となり、さらに環境対応車普及促進税制や車齢13年超車の下取支援政策が追い風になり、受注台数が堅調さを見せ始めている」など、定額給付金、エコポイント制度、エコカー減税などが一定の効果を挙げているとのコメントがみられている。エコポイントについては、4月には買い控えによる売れ行き不振を指摘するコメントが目立っていたが、制度開始後は比較的順調な出足を示している模様である。エコカー減税についても、関連コメントがかなり見られており、極度の不振が続いていた自動車販売に薄明かりが見え始めているようだ。

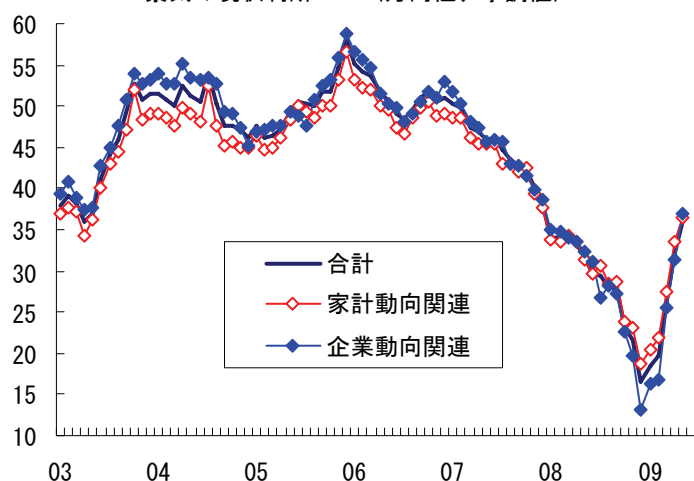
こうした対策効果もあって、家計動向関連のD Iは改善が続いている。特に小売の改善が目立った。対策効果以外にも、GWの天候が比較的良かったことなどもプラスに寄与した模様だ。個人消費は悪化が続いていたが、4-6月期には一時的に持ち直す可能性が高いと思われる。

企業部門についても、「市況は悪化の一途で、商談件数が伸びていない」、「特に販売価格面が非常に厳しくなっている」など、厳しい業況を示すコメントが引き続き多いが、「国内向けは相変わらず低調であるが、中国向けの引き合いは増えてきている」といった明めのコメントも散見されるようになっている。先行きについても、「自動車関連、白物家電もようやく底を脱した感覚が出てきており、3～6ヵ月先の受注も確実に増加する計画が提示されている」など、受注の持ち直しを指摘するコメント等がいくつかみられた。また、「公共工事が前倒しで行われる等、受注環境が改善しており、今後やや良くなる」等、公共投資に動きが出始めているとのコメントも一部でみられた。

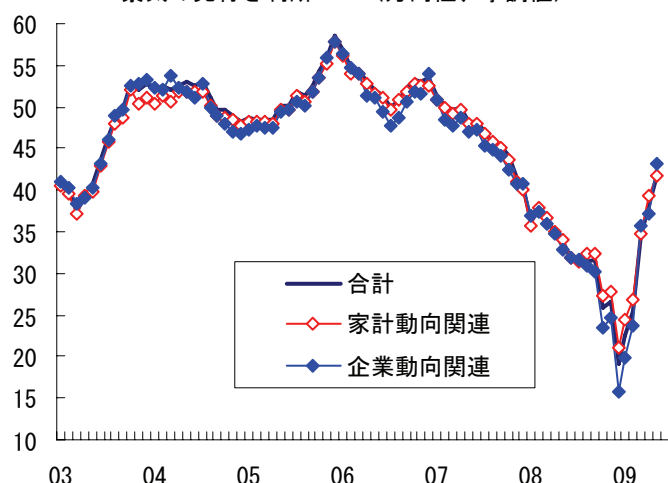
この結果、企業部門のD Iは37.1と、4月の33.7から3.4ポイント改善している。好不調の判断基準となる50は大きく割り込んでいるものの、直近のボトムであった08年12月の12.4と比べればかなりの改善である。輸出の底打ちや在庫調整の進展が企業の景況感を徐々に向上させていると考えられる。

雇用関連のD Iも5ヶ月連続で改善している。ウォッチャーのコメントは「求人特に減少幅の大きい製造業では、前年比で5割減となっている」「人材紹介・派遣ともに求人の依頼が低迷したまま、4月以降ほとんど動きがなくなっている」など、暗いものがほとんどだが、「求人数や求人倍率は減少傾向にあるものの、企業の求人意欲は高まっている」と、限界的な変化を指摘する声も数は少ないが存在した。雇用はこの先も大幅な悪化が続く可能性が高いが、足元の景気持ち直しの動きが今後広がってくれば、悪化ペースが次第に弱まる可能性も見えてくるだろう。

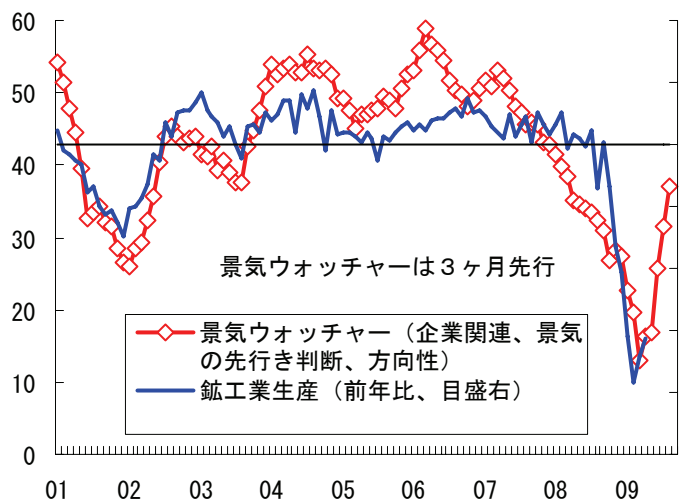
景気の現状判断D I（方向性、季調値）



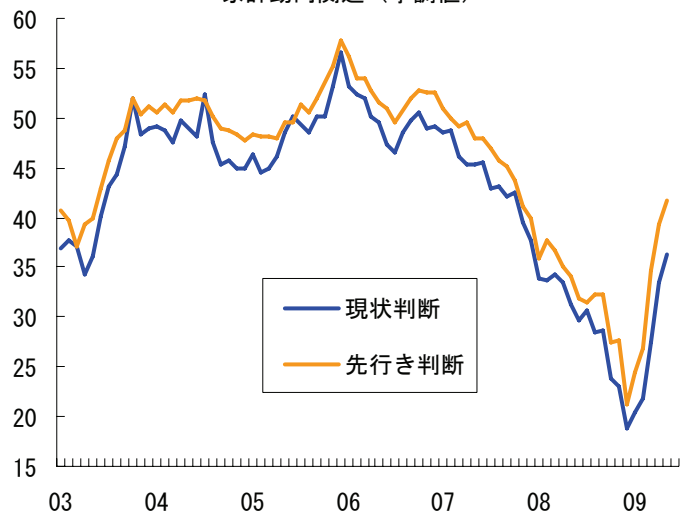
景気の先行き判断D I（方向性、季調値）



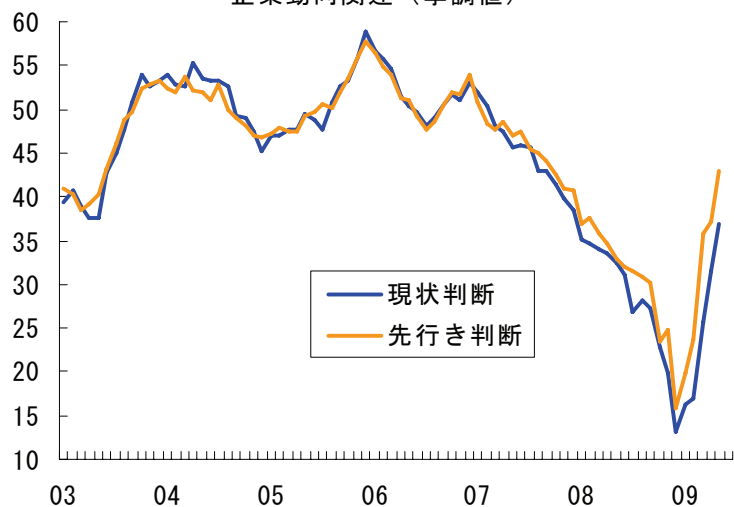
景気ウォッチャー調査（企業関連）と
鉱工業生産



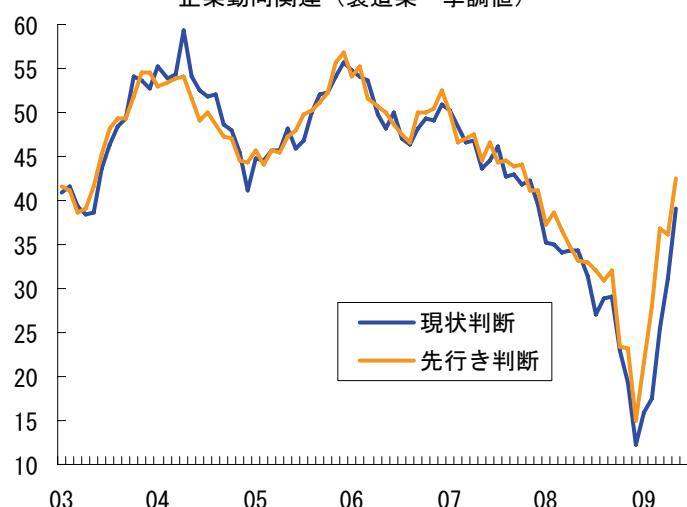
家計動向関連（季調値）



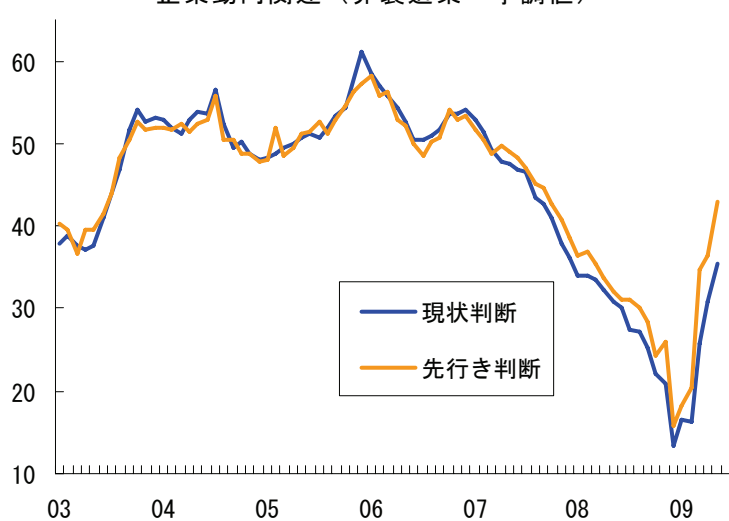
企業動向関連（季調値）



企業動向関連（製造業・季調値）



企業動向関連（非製造業・季調値）



雇用関連（季調値）

